

白老町・仙台市歴史姉妹都市提携40周年記念特別展 「仙台藩ゆかりの“DATE”な工芸～受け継がれた美意識と伝統の技～」の開催にあたって

本町と仙台市は、安政3(1856)年、幕府の命により仙台藩が白老に元陣屋を構築し北方警備に従事したのが縁で、昭和56(1981)年に歴史姉妹都市を提携し、以来、官民相互の様々な交流が行われています。一方、白老元陣屋跡では、史跡の環境整備事業により、北海道でも数少ない幕末蝦夷地の風景を再現、テーマ博物館 仙台藩白老元陣屋資料館とともに、生涯学習の場として四季を通じて利用されています。

本年は歴史姉妹都市提携40周年となることからこれを記念し、仙台市や宮城県等のご協力を得て、特別展「仙台藩ゆかりの“DATE”な工芸～受け継がれた美意識と伝統の技～」を開催する運びとなりました。宮城県内では仙台藩の時代に由来を持つ伝統的な工芸品の制作が、卓越した技を持つ職人たちの手により、現在も脈々と受け継がれています。

本展覧会は、仙台藩由来の技によって形作られ、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」の構成文化遺産に認定されている伝統的工芸品の数々を紹介するとともに、伝統工芸技術を体験しながら学べるハンズオン体験キットの展示や職人の指導のもとに体験できるワークショップを行い、仙台藩の伝統工芸への理解を深めるものです。

仙台藩ゆかりの卓越した職人の技による秀逸な伝統的工芸品の美の数々をご堪能いただければ幸いです。

白老町長 戸田安彦

主な伝統的工芸品	解 説	資料写真
<small>せんだいたんす</small> 仙台筆筥 国指定伝統的工芸品	江戸時代末頃から製造されはじめ、明台から大正にかけて現在の仙台筆筥が定着したといわれる。4尺筆筥が原型で、木地はケヤキを主体とし、木地呂塗りで仕上げ、牡丹や唐獅子などの文様を手打ち金具で装飾した堅牢で重厚な筆筥である。指物・漆塗り・金具の3つの熟練した職人技によって生み出される。	
<small>せんだいおふで</small> 仙台御筆 県指定伝統的工芸品	慶長19(1614)年、藩祖伊達政宗公が仙台藩の学問と産業振興を目的に大坂の筆職人を抱えて始められたと伝えられ、丹念に作り上げられた仙台御筆の評判は江戸や大坂、京へと広がった。宮城野萩を軸とする萩筆をはじめ、明台以降にはハギ・マツ・ススキ・ヨシ・タデを軸とした5本一組の五色筆なども人気を博した。その後も長く市民の間で広く使用され、昭和40年代頃まで市内の小学校の教材に雄勝硯と仙台御筆が使われていた。	
<small>せんだいはりこまつかわ</small> 仙台張子松川だるま 県指定伝統的工芸品	天保年間(1830～1844)年頃、仙台藩士松川豊之進によって始められたものと伝えられる。仙台張子の主流で青いだるまとして名をはせる「松川だるま」は顔の周りが群青色で縁取られ、胴体に宝船や福の神が記される色鮮やかなもので、古くから仙台の庶民に縁起物として親しまれている。他に黒面や張子玩具などもある。	
<small>つみやき</small> 堤焼 県指定伝統的工芸品	江戸時代中期に仙台藩主伊達綱村公が江戸から今戸焼の陶工上村万右衛門を招き、日用品を焼かせたのが始まりとされる。仙台城下堤町一帯に窯場を設け、黒と白の釉薬を豪快に流し込んだなまこ釉を特徴とする素朴で力強い焼き物で、昭和初期に堤町を訪れた民藝の父・柳宗悦に「東北を代表する民窯」として注目され、水瓶などが高く評価された。	
<small>つみにんぎょう</small> 堤人形 県指定伝統的工芸品	優美にまほ笑むお雛さまに、勇ましく見栄を切る歌舞伎役者。その美しい姿で見る者を魅了する堤人形は、元禄年間(1688～1704)年頃、堤焼とともに始められたと伝えられる。文化・文政(1804～1830)年頃が最盛期と言われ、京都の伏見人形とともに土人形の二大源流と称され、彩色の優美さや洗練された形などで郷土人形の最高峰といわれている。	
<small>おがつすり</small> 雄勝硯 国指定伝統的工芸品	1396年(室町時代)頃にはすでに石巻(雄勝)で硯石が産出されていたと伝えられる。雄勝硯の原石は黒色硬質粘板岩で、粒子の均質さや光沢などから硯の原石として最も優れた特徴を持つ。露天掘りで採石される雄勝地区は代表的な硯の産地である。元和年間(1615～1624)年に鹿狩りで牡鹿半島を訪れた伊達政宗公に献上され、賞賛を受けたという。	
<small>みやぎでんとう</small> 宮城伝統こけし 国指定伝統的工芸品	江戸時代後期(1804～1830)年頃、東北地方の温泉地において子供の土産品として生まれたものと伝えられる。宮城県内には作並・遠刈田・鳴子・弥治郎・肘折の5系統があるが、伝統こけしの魅力は最も簡略化された造形美に加え、清楚で可憐な姿といわれ、独特の形、模様をとおして今日に受け継がれている。	
<small>せんだいたなばた</small> 仙台七夕 日本遺産構成文化財	伊達政宗公の時代から続く年中行事として受け継がれ、今日では日本古来の星祭りの優雅さと飾りの豪華絢爛さを併せ持つ東北三大祭りとして名を馳せている。紙と竹でできた七夕飾りや笹飾りはとても美しいもので、毎年8月6日から8日まで開催される仙台七夕まつりには、約3,000本が立ち並び、200万人以上の観光客が訪れている。	

- ◆協 力◆ 仙台筆筥協同組合/長谷部漆工/岡田工芸/大友毛筆店/本郷だるま屋/堤焼乾馬窯/つみのおひなっこや
- ◆資料提供◆ 宮城県教育委員会/仙台市博物館/仙台市歴史民俗資料館/仙台筆筥協同組合/仙台写真工房/文化事業部
- ◆会 期◆ 令和3(2021)年7月3日～8月15日 【お問合せ】 仙台藩白老元陣屋資料館 ☎0144-85-2666